

「シドニー便り 2. 0」(第20回)

～ 武道交流 ～

5月24日

最近、日本から訪問された武道関係者とお会いする機会が相次ぎましたので、この機会にまとめてご紹介いたします。

3月から4月にかけて、剣道、柔道、空手、杖道といった日本の武道の関係者がシドニーはじめNSW 州各地を訪問し、大会や行事が開催されました。私もそれぞれの大会・行事に招待を受けて参加をし、日本の武道が多くのオーストラリア人に親しまれていることに感銘を受けました。私自身、中学生と高校生の時に剣道部に所属し(二段までとりました)、若い頃に武道をたしなみしましたので、日本の武道が当地で普及していることを個人的にもありがたいことと受け止めています。

以下、時系列で記します。

3月17日、空手の代表团(極真空手、添野義二・志道館代表一行)の訪問を得て、ロックス地区のスポーツセンターで、全オーストラリア選手権が行われました。「押忍」の挨拶が飛び交う中、「型」や「セミコンタクト」など、様々な種目の行事が行われました。印象的だったのは、小学生くらいの小さなお子さんの参加が多いこと。皆さん、それぞれしっかりと空手着を着こなしていました。

滞在中、一行は、ステファン・バリ NSW 州下院議員の支援を得て、NSW州議会を訪問し、私も同行しました。フランクリンNSW州上院議長及びパイパー下院議長を表敬し、また、議会の党首討論(クエスチョンタイム)も傍聴されました。議会開会にあたり、パイパー下院議長から、「本日は日本から空手チャンピオン一行が議場に視察に来られている」と紹介があり、下院の議場内でどよめきが起こり、一斉に注目を浴びることがありました。



その二週間後、3月31日には、全オーストラリア剣道選手権がシドニー大学のスポーツセンターで行われました。今回が第46回ということで、歴史を感じます。8つの州・準州/地域の対抗戦ですが、驚いたのはそのレベルの高さ。私が剣道をたしなんだのはずいぶん昔ですので、見る目も衰えています。出足の鋭い面打ちなど、うならされるような技が多く見られました。力任せの技が多いのだろうかという事前の予想を裏切る形で、瞬発力に富む巧みな技が繰り出されます。技だけでなく、礼儀作法もきちんと教育されています。キャンベラからは、欧州のある国の大使館幹部が参加しており、剣道着での挨拶を受けました。日本から範士8段、教士8段の先生方が来られており、指導にあたられていました。8段の先生方の参加を得て、昇段審査も行われると聞きました。予想をはるかに上回るハイレベルの大会に強い印象を受け、自分の学生時代の競技を思い出しながら、会場を後にしました。



4月12日には杖道の全オーストラリア選手権が Menai 市のスポーツセンターで行われました。杖(つえ)の道と書いて「杖道(じょうどう)」と呼びます。全オーストラリア剣道連盟は、剣道に加えて、杖道と居合道の大会を組織しています。日本から5名の杖道範士8段の先生方が参加されました。地元出身のティナ・アヤド NSW 州下院議員も会場に駆けつけ、応援をいただきました。静寂の中での演武の披露は、剣道や空手とは異なる趣で、興味深く拝見しました。鎖がま、十手といった道具は、今回、私も初めて見る機会を得ました。



その翌日の4月13日は柔道です。ウーロンゴン市のイラワラ柔道インターナショナル道場で、東京オリンピック・柔道男子 60kg 級金メダリストの高藤直寿(たかとう・なおひさ)氏をコーチに招いての講習会が催されました。多くの方々が真剣に練習する様子に引き込まれました。ここでも小学生くらいのお子さんの参加が目立ちます。また、女性の参加者の多さも印象的でした。柔道が国境を越えた国際的なスポーツとしてコミュニティに定着していることを実感します。金メダリストだけあって、高藤選手の指導は流れるような美しさです。それを懸命に体得しようとする生徒の眼差しも真剣そのものでした。運動神経が良いのでしょうか。高藤選手の教えをあっという間に吸収しているようでした。



以上、駆け足になりましたが、最近参加した4つの武道の行事をご紹介します。

いずれも、技だけでなく、礼儀作法や精神面の涵養が指導にきちんと盛り込まれていることを感じました。日本の武道が、正しく、しっかりと、オーストラリアで根付いていることを実感した 2 か月でした。

(以上)